



広報 おんな

平成7年3月1日発行 No.175



主な内容

- 特集……渡久地政信先生を迎え
「翔ゆたか 村民代表 渡久地メロディーを歌う」
- とびつくす……うんな農業まつり 恩納村文化展
商工会婦人部「日正月料理を届ける」
「山内キヨさん 金城好江さん」表彰を受ける
- スポーツ……恩納中学が初優勝 少年サッカー教室

おんなその人の動き

人口	9,062	(0)
男	4,640	(+11)
女	4,422	(+11)
(2月末現在)		

恩納中学が初優勝

第26回琉球放送旗杯争奪中学新人バレーボール大会で恩納中学が見事、初優勝を飾りました。恩納中学は準決勝で強豪、七連覇を狙う西原東中学を2対1の接戦で退け、決勝は、佐良浜中学との対戦となりました。決勝では終始リード、2対0と破り初の栄冠を手に入れました。

同バレーボール部の部員13名、日曜日でも休まず今大会に向けて猛練習をつんできました。

父母の一人は「子供たちの頑張りもですが、山田先生の熱心な指導には頭が下がります。」と話していました。



山田政和監督 初優勝を語る

地区の新人戦で準V、そして今回の県新人戦での「初優勝」。本当に子供たちがよく頑張り、素晴らしいプレーをしたからだと思います。

昨年、あと一歩というところでも悔しい試合ばかりを続け、自分の力を出せないままの試合でした。しかし、今回は自分たちの力を百パーセントだしぎっての初優勝でした。大きな自信になったと思います。
(二学年PTA通信 風鈴の音より)

やっぱり プロは凄い

今や、子供たちに人気ナンバーワンスポーツはサッカー。学校の休み時間などはサッカーボールにむらがる児童生徒が多くみられます。

三浦泰年選手(清水エスパルス)、米蔵誠選手(名古屋グランパスエイト)、藤吉信次選手(ベルディ川崎)による少年サッカー教室が一月二十一日、赤間運動場で行われました。会場には、Jリーグのプロの技を一目見ようと二五〇人のサッカーファンが村内はじめ村外からも訪れ、主催した社会教育課の担当も、サッカー人気の凄さにびっくりした様子でした。

サッカー教室には約百五十人の子供たちが参加。三浦選手のてきぱきとした指導のもと、パス、トラップ、シュート、基礎から分かりやすく指導が行われました。プロの模範演技に子供たちからは思わず歓声があがる場面もありました。

三選手は村内の「かりゆしホテル」で宿泊、赤間運動場で一月十七日から二十一日まで自主トレーニングを行いました。



恩納村名誉村民 第1号

渡久地政信先生を迎え

翔 ゆたか 村民代表

「渡久地メロディーを歌う」



歌謡界に数々の名曲を送り出し、今もなお活躍中の渡久地政信先生。恩納村の名誉村民第一号でもある先生をお招きし「翔 ゆたか・渡久地メロディーを歌う」チャリティコンサート（同コンサート実行委員会主催）が二月十二日、「コミュニティセンター」で昼を夜の二回開催され、満員の村民が詰め掛きました。



突然、歌手の菅原都々子さんが会場に。名曲「月がとっても青いから」が聞きたかった。

渡久地政信先生は、大正五年に現在の南恩納に生まれ、大正十年に、両親に従い奄美大島に移住しました。
昭和十五年に日本大学芸術科を卒業。昭和二十六年に「夢のユイササ」で本格的な作曲活動を開始し、以後「お富さん、上海帰りのリル、東京アンナ、踊り子、俺は淋しんだ、湖愁、島のブルース、長崎ブルース、池袋の夜、別れ酒」など、多くの名曲を世に送り出してきました。
昭和六十三年には日本レコード大賞功労賞を受賞。平成五年には勲四等瑞寶章（ずいほうしょう）を受章しています。



ミナミンチュ（南恩納の人）の渡久地先生。客席で思い出はなし。

観客は渡久地メロディーを満喫する



若手の又吉直也さんは練習量も豊富。「気持ちよく歌えました」と、花束を抱えニッコリ。



渡久地先生の親戚代表。やはり血筋は争えないもの。顔付きもよく似て居る渡久地政安さん。



フランク永井を思わせる歌声の田仲康仁さん。客席からは大きな声援が。



女性代表の大城初子さん。「練習よりもうまかった」と満足。



番外編

皆さんお疲れさまでした。

村民を代表して出演する皆さんは、翔ゆたかさんの自宅で本番に向け猛特訓。
翔さんの熱心な指導でメキメキと実力をつけ、翔さん、曰く「後は本番を待つばかり」。



わが村の自然の恵みを

第一回うんな農業まつり

地域農業振興推進連絡協議会（会長 當山安信）主催による「第一回うんな農業まつり」が一月十四日、十五日の両日、村立コミュニティセンターにおいて開催されました。

本村では、花卉、野菜、果樹等を中心に様々な農産物が生産、出荷され市場から高い評価を受けています。この農業まつりは、わが村の自然と生産者の努力で育まれた大地の恵み農産物を一同に展示、即売し広く村内外にアピ

ルすることや、生産者の技術、意見交流を図り生産意欲を高めることを目的としています。

大ホールでは、観葉、造園、切花、らの各部会の展示即売。育て方や手入れ方法を熱心に聞き、買い求める人もいました。また、中庭では野菜、果実のほか生活改善グループ、漁業組合による即売コーナーが設けられ、村内はじめ村外からも多くの人が訪れにぎわっていました。

文化芸術に関心も高まる

第三回恩納村文化展を開催

心の豊かさを求める時代、文化、芸術に対する関心も年々高まってきています。本村には文化協会会員はじめ多くの村民が日頃から創作活動に励んでいます。

その作品を一同に展示し広く村民に鑑賞してもらおうと一月二十五日から二十九日の五日間、文化協会主催の第三回恩納村文化展がコミュニティセンターで開催されました。

今回は絵画、陶芸、華道など出品者

七十九名、出品作品百十九点が展示され、年々、出品作品数が増えています。会場を訪れた人からは、「とても素晴らしい、レベルの高い作品にびっくりした」と感想を話していました。

温かい心を伝えたい

商工会婦人部、旧正月料理を届ける

「おじいちゃん、おばあちゃん」手作りの料理で旧正月を迎えて下さい。商工会婦人部（比嘉静子部長）では、地元の特産物をふんだんに使った旧正月料理を、独り暮らしのお年寄りの家へ届け大変喜ばれました。

以前は、定期的に集まり健康食の料理講習会を実施していました。「せっかく集まり、料理を作るなら、もっとこの試みを発展させよう」とメンバーが話し合い、このボランティア活動を

思いつきました。昨年に続き二回目、少しでもお年寄りが食べやすいようにと二日ばかりで仕上げたものです。部長の比嘉静子さんは「料理を届けるだけでなく、温かい心を伝えたい」と話していました。

料理には次のような琉歌も添えられました。

千代迎けえい栄える 常盤なる松に
あやかりて若さ 御願げさ

山内キヨさん 金城好江さん

クリーン部門で表彰を受ける

沖縄県心豊かなふるさとづくり県民運動推進週間（一月二十三日から二十九日）にちなんで、第十四回沖縄県心豊かなふるさとづくり県民運動推進大会が、一月二十七日県庁講堂で開かれ、環境美化や清掃活動に功績のあった七個人と十三団体が表彰されました。

恩納村では、個人クリーン部門において、山内キヨさん（仲泊区）、金城好江さん（前兼久区）がそれぞれ表彰されました。

日頃、地域の環境美化をはじめボランティアやリサイクル活動への協力が認められ今回の表彰となりました。

美しく、緑ゆたかで人情味あふれたふるさとづくりを目指す同運動は、「クリーン・グリーン・グレイシヤス（CGG）」を合言葉に一九八〇年に県が提唱、その間、県が基本構想を策定し、それに沿って各市町村を主体に運動を推進しています。



恩納村漁業組合 海ぶどうの養殖に成功

恩納村漁協は、海藻の一種、海ぶどう（和名 クビレズタ）の陸上養殖施設での養殖に成功しました。既に昨年の7月から、村内の売店やホテルで販売しており好評を得ています。

青年部を中心に県水産試験場の技術指導を受け、平成元年度より陸上養殖試験を行っており6年目にして安定供給する技術を確立しました。

海ぶどう養殖は天然物の本場、宮古では海面を使った方法は以前からありました。陸上養殖の試みも多くあります。しかし、一年中出荷できる体制を確立したのは恩納村が初めてです。

今年度の生産予定数量は約3トンを目指していましたが、1月末現在で約6トン出荷をしており、生産は順調に伸びています。



**活性化に
夢が膨らむ
生産部会を設立**

「海ぶどうを恩納村の新しい特産品として伸ばしていこう。」と、十二月二日に十五名の生産者が「恩納村海ぶどう生産部会」を設立しました。

海ぶどうの収穫は一房づつ手で摘む細かい作業の為、家族の力が是非必要になります。設立総会は作業に携わる家族も大勢参加し盛大に行われました。

初代部会長に 銘苅宗和さん 日本一の生産地へ

恩納村は県内に先駆けてモズクやアサの養殖に成功させた実績もあり、部会の努力と村や漁業組合の関係者・恩納村漁業振興会の応援もあって今回の成功に結びつくことができました。

初代部会長には、長年、試験研究に取り組んできた銘苅宗和さんが選出されました。

銘苅さんは、「若いときに食べた海ぶどうの味が忘れられず、恩納村でも作れないものか」と夢を抱いていました。

今後は、「恩納村の特産品として定着させ、日本一の生産地にしたい。」と豊富を語ってくれました。

是非一度 お試し下さい

恩納村の海ぶどうは、生の新鮮さが魅力で、常温保管で約七日間はもちます。生きていますので冷蔵庫に入れないで下さい。

食べ方は真水で軽く表面の海水を洗い流し、水を切って盛り付け、お好みのドレッシングを刺し身を食べるようにお召し上がり下さい。

また、手巻き寿司の具としても利用できます。

恩納共同売店や村内の売店、漁協で販売していますので利用下さい。

善意 ありがとう

二月一日、仲泊小中学校の児童生徒の代表が役場を訪れ、阪神大震災の被災者への義援金として十万六千二百九十二円を大城教育長に手渡しました。

「テレビで神戸の皆さんが苦しんでいるのを見て、自分たちも協力したい。」と義援金を募ることを決めました。募金活動は自分たちの小使いを持ち寄り、先生や周辺の商店などにも協力をお願いしました。



阪神大震災に 本村から義援金

阪神大震災の義援金として、本村から百万円が送られました。被害の最も大きい兵庫県には多くの本村出身者が在住しているほか、多くの観光客が阪神地方から本村を訪れていること等を考慮し義援金の支給の決定となりました。また、直接被害にあわれた本村出身者にも村から見舞金が送られました。

村民から 多くの善意

今回の阪神大震災の発生直後から、本村では住民課と社会福祉協議会が各自治会を通し村民の皆様へ義援金の協力を求めました。その結果、百四万三千六百円の義援金が寄せられました。

村民の善意は日本赤十字社、共同募金会とおし被災地へ送られました。また、各事業所や個人からも直接、義援金が寄せられました。

当山土木（十万円）
当山土木職員（三万六千円）
平安名組（十万円）

住民課より

住民票における世帯主との続柄の記載方法が変わります。

近年におけるプライバシー意識の高揚等の社会情勢の変化に即し、世帯主の嫡出子、特別養子及び養子並びに世帯主である父に認知されている非嫡出子について、住民票における「世帯主との続柄」の記載を統一しようとするものです。

区分	改正前	改正後
嫡出子	長男二女等	
特別養子	長男二女等	
養子	養子	子
非嫡出子（世帯主である父に認知されている場合）	子	
妻の連れ子（世帯主が夫である場合）	妻の長男二女等	
	妻の子	

平成七年三月一日から、今回の記載方法の改正が実施されます。

収益金を 社会福祉へ

村婦人会（会長 名城幸代）は、十二月三日に行われた「第六回恩納村婦人芸能のつどい」の収益金を社会福祉協議会へ寄付しました。



三月一日～七日の一週間は「春の全国火災予防運動週間」です。

冬から春先に一年で最も火災の発生が多い時期です。



消防記念日
(3月7日)

防火の輪 つなげて
広げて なくす火事